

美馬市立 木屋平小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- 基礎的・基本的な学力の定着を図り、自主的・主体的に学習に取り組む児童を育成する。
- 学ぶ喜びや学ぶ楽しさを感じる「こやだいラーニング」の確立(少人数学級指導)

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員 校長 総括
教頭 総括補佐
教務・研修・人権主任
養護助教諭

校長

増井 進 印

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 計算の基礎学力は定着している。既習内容のプリントや体験学習をすることで、知識の定着も図りつつある。	①漢字・計算等の基礎的・基本的な知識技能を確実に身につけ、生活に活用することができる。 ②文章を読み、内容を正確に読み取ることができる。	①単元末テストで全員が七割以上の正答を達成できるようにする。	具体的方策①を「朝のチャレンジタイム」等を活用し、一人一人に応じた漢字、計算、文章問題等のプリントや、話す・聞く練習を継続的に行わせる。」に変更する。	評価	次年度における改善事項
課題 漢字の書き取りや活用に課題がある。読解力、文章を書く力も十分でない。	具体的方策(教員の取組) ①朝のチャレンジタイムを活用し、一人一人に応じた漢字、計算・文章問題等のプリントを継続的に行わせる。 ②読書カードを用いて、読書の量や質を高める。	取組指標 ①朝のチャレンジタイムで漢字・計算・読解力等の復習を週3回実施する。 ②毎週読書カードを点検し、助言する。			

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 全校児童の前で発表する機会が多く、相手を意識して話すようになってきた。あいさつやお礼の言葉を手紙に書き、伝えることができる。	①自分の考えを筋道を立てて、分かりやすく話したり、文章を書いたりすることができる。 ②図や表などを活用したりしながら、自分の考えや意見を説明することができる。	①作文や発表を3段階で評価し、全員が2以上の評価が得られるようにする。 ②自分の意見を、理由とともに言える児童が70パーセント以上になるようにする。	具体的方策①に「③自分が考えたことを、図や表、式を示したりしながら説明させる。」を加える。	評価	次年度における改善事項
課題 自分の思いや考えを、筋道を立てて分かりやすく話すことや、丁寧な言葉を使うこと等に課題がある。	具体的方策(教員の取組) ①各教科、特別活動等で自分の意見を発表する場面を意図的に設定する。 ②調べ活動などを行い、内容をまとめたり、検討したり、発表したりする活動を増やす。	取組指標 ①全校集会で児童が意見を発表できる場を毎月1回以上設定する。行事の感想、新聞などを掲示し多様な表現にふれさせる。 ②自分の考えを筋道立てて発表する場を週1回以上とする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ 学習に対する興味・関心が高く、すすんで学習に取り組むことができる。	①課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。自信をもつことができる。 ②学んだことを生活に生かしたり、さらに詳しく調べようとしてすることができる。	①学習アンケートを行い、意欲的によかんばったと答える児童が80%以上にする。 ②アンケートを行い、宿題などの確認を自分でしたと答える児童が80%以上にする。	具体的方策①を「自主学習のやり方やモデルを示し、予習・復習を促したり、ふり返りカードで自己評価をさせたりする。」に変更する。	評価	次年度における改善事項
課題 学んだことを積極的に活用しようとして、さらに詳しく調べようとする意欲が十分でない。	具体的方策(教員の取組) ①自主勉強ノートを活用させたり、ふり返りカードで自己評価させたりする。 ②学年に応じた家庭学習の仕方の共通理解を図り、児童や家庭に知らせる。 ③地域の良さを感じ、理解を深める体験活動を行う。	取組指標 ①意欲的に学習できたことなどを、帰りの会などで紹介し、賞賛する。 ②家庭学習の手引きや学校通信を使って保護者の理解や協力を得る。			

平成29年度 学力向上ロードマップ

